２００１年１月１５日発行

Ishi Datami

いしだたみ

おくんち　撮影・5回生　谷村　隆三

長崎県立長崎南高等学校
２００１年冬
VOL. 17
長崎南高関西同窓会

NAGASAKI

新歳時記

おくんち

長崎の秋を彩る「おくんち」は３６０年の歴史を持つ、諏訪神社のお祭りです。長崎っ子なら、あのしゃぎりの音を聞いただけで、落ち着かなくなることでしょう。長崎では正月より重要な行事で、子どものころは、おくんちに服や靴を新調してもらったものです。同窓生には踊町に育った人も多く、祭りに出たという方も少なくありません。龍踊りや鯨の汐吹き、コッコデショ、オランダ船など、長崎ならではの出し物はそれは豪華で、７年ごとに回ってくる踊町が楽しみでした。

小学校もおくんちには半ドンで、友人たちと大波止近くの露店をのぞいたり、サーカス小屋を眺めたりしたものです。本番前の夜、踊町では家紋のついた幕を張り、衣装や道具、お祝いの品々に栗、桃饅頭などを飾って披露します。これが「庭見せ」で、昔は家の奥まで見せることで、キリシタンでないことを証明したのだとも言われています。庭見せに飾られた青いみかんやごま柿、母が作る煮〆や甘酒、父が好んだ鯨の百尋、おくんちの思い出はなぜか食べ物のことばかり、まだ暑いのに冬服を着せられて大汗をかいたのも昨日のことのようです。

南山手グラバー園にある長崎伝統芸能館には傘鉾や曳物が展示され、「おくんち」の映画が上演されています。帰郷のおりには立ち寄って、国の重要無形民俗文化財である「おくんち」を楽しんでみてはいかがでしょう。

２回生　中野　章子

インデックス

新歳時記	中野章子	2
懐かしい手紙	一瀬榮次先生	3
第１０回総会		4．5
記念スピーチ	ビクター	6．7
エッセイ	由布千恵子	8
エッセイ	本田佳明	9
エッセイ	楠本祐子	11
インフォメーション		12

懐かしいてがみ

一瀬　榮次先生

「二十一世紀を迎える。世紀を拓く。」
そう語られていた数年前までは、その言葉に新世紀への期待と夢を感じていた。空の彼方に山の頂を遠く仰いで「幸い住む」と思っていたのと同じ気持ちだった。ところが実際にその頂上に近づいてみると目の前に展開する光景は切り立つ岩とゴロゴロした険しい道ばかりで、よほど気をつけないと転げそうである。この先どうなるだろうかと思うと足場もろとも崩壊しそうな不安を感じる。「坂の上の雲」はなかった。

今もそうであるが、教師の性（さが）で「現状に対する認識は厳しく悲観的でも、将来は楽観的に」をモットーとしてきた。これからもそれでいたい。

残り少なくなった日めくりには剥ぎ取ったあとがまるで「かさぶた」のようにくっついている。毎朝、日めくりを破る音に、新鮮なときめきを覚えた日もあった。今年の最後の一枚を破れば二十世紀も終わり。新世紀の始まりに感慨がないわけではないだろう。
１９３１年生まれの私は、自分史の二十世紀はこうであったと締めくくらなければならないと思っている。

明ければ、一月 January。この月の名前は「ローマ神話」に出てくるヤヌス（janus）からとったものであるという。ヤヌスは顔が頭の前と後ろにある戸口の守護神と英語の辞書にある。勝手に解釈すれば、前の顔は未来を、後ろの顔は過去を向いているのだろう。２００１年のヤヌスの神には世紀の入り口をしっかり守護して二十世紀に跋扈した悪魔は入れないでほしいものである。

人間はヤヌスの神に似せて創られたからであろうか、誰もが「違う過去と違う未来」をもって生きている。そんな思いで接すると、かけがえのない生徒の一人一人が心底愛おしくてならない。それにしても、これまでとは違う未来とするために「たかが十年、されど十年」をどう生きようか。

初暦見知らぬ月日の美しく（吉屋　信子）

「お互い健康が一番だね。大きな幸せって望めそうもないから、小さい喜びを見つけてそれを幸せにしよう」と子供のいない私どものささやかな願いです。

つい先日「夫婦一心同体」になったと実感した瞬間がありました。「一心」になったと感じることはこれまでもなかったわけではない。しかし、夫婦同体になるのには年期がいります。「私が焼き芋を食ったら、家内がおならぷん。」何よりの証明です。これでどうやら「偕老同穴」の契りを果たし得そうです。

少々の悩みがあっても、家族が健康であれば、それが何よりの幸せです。特に五十歳を越えた同窓生の皆さん「おならは老化の警報器」だそうですが、夫婦一心同体の醍醐味を楽しみにして、元気で二十一世紀をお迎えください。

関西同窓生の皆様の御多幸をお祈りいたします。

第10回総会

２０００年９月２３日
出席者８１名
招待恩師
一瀬　榮次　先生
原　　宮之　先生
吉川　雄幸　先生
川下　満之　先生
水田　美知子先生
菅籐　邦輔現教頭

今回は１０周年の記念総会。多数の恩師をお呼びし、会場も東洋ホテルに変え、会員の皆様に集まっていただきたいと、幹事一同張り切って、計画した総会でした。
おかげさまで、初めての方にも、また懐かしい方にもお会いすることが出来て、楽しい半日でした。
また、ロシアの留学生のビクター君のスピーチ、３１回生の楠本祐子さんとその友人によるフルートとピアノの演奏で、華を添えていただきました。
おおいに盛り上がった総会の雰囲気は２次会へと続き、歓談は尽きないようでした。

インターネット同窓会

株式会社ゆびとまが開設する「この指とまれ」（http.//www.yubitoma.or.jp/）インターネット上で同窓会の再開を無料で仲介するサービスです。
ゆびとまのホームページを開き、目的の学校を選択することから始まります。
電話ではなく、インターネットでお話の出来る同級生が見つかるかもしれません。
一度皆さんもアクセスしたら如何ですか。

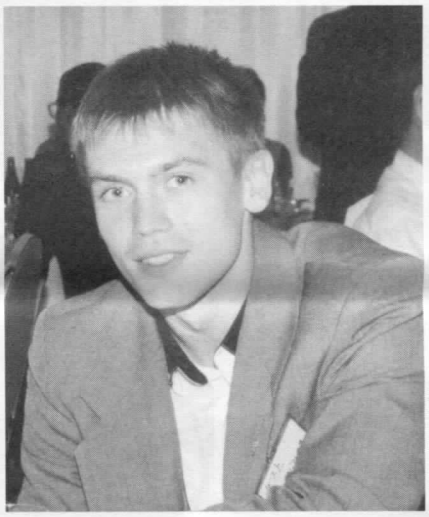
会費振り込みのお願い

会費の振替用紙を会報誌と同送しておりますが、事務局の手違いで、一度振り込みされた方にも振替用紙を同送いたしました。平成１２年度に２回振り込みされた４０数名分につきましては平成１３年度分の会費としてお預かりし、振替用紙を同送いたしません。
お詫び方々ご連絡申し上げます。

第１０回総会記念スピーチ

ビクトル・クジミンコフ

（２回生中野秀子さんの留学生の家の住人です。この文章は彼の原稿通りで、唯一手を入れたのは黒沢監督の名前の漢字だけでした。）



今日は！

私はビクターと申します。ロシアのモスクワから来ました。モスクワ大学の歴史学部さらにその大学院の政治学部を卒業しました。現在、大阪外国語大学の大学院の研究生として勉強をしております。来年の四月から京都大学の司法学部の博士課程で勉強を続けたいと思います。宜しくお願いします。

今日のスピーチのテーマは“近くて遠い知られざるロシア”です。

まず、今日のロシアについて一言をしたいと思います。ご存じのように、１９９１年の１２月に“ソビエト帝国”と呼ばれたソ連が解体してしまいました。そこで新生ロシアが誕生します。ゴルバチョフの建て直しの代わりにエリツィン政権が来ます。ソビエトの体制に慣れたロシア人にとって厳しい資本主義現実が現れます。ソ連での安定と安全された共同生活は各人の資格と能力による競争生活に変わります。野放図な民営化のせいで沢山の人々は貧乏になりました。ソ連の時に価値が少ないお金は人生の刺激と目的になります。

ソ連のときと比べてロシア人は自由になりましたが多くの人々はその自由をうまく利用することができませんでした。ソ連のときに1%しかなかった失業率は急激にあがってきました。エリツィン政権はクーデターと批判になやまされてだんだん弱まって政治的危機が相次いでいくことになりました。政治と密接につながる経済も崩れました。経済的苦しい状態になった結果、頭脳流出、ユダヤ人のイスラエルへ移住、企業事件、少数民族の独立要求などが発生しました。そういう条件のなかでロシア人は生活を続けました。多くのロシア人は自分の国で起こっていた変化の重要性が分かりませんでした。ソ連が解体した悲劇の意味を意識していませんでした。その生活の変化に対して不満を表現しながらソ連スタイルの生活を続けていました。

歴史の行方のせいで日本人とロシア人はお互いのことを良くわかりません。ロシアは広くて多民族国家です。西ヨーロッパから極東まで広がっています。ロシア人はヨーロッパの白人の格好をしているけれども完全にヨーロッパの考え方をしているとはいえません。厳密に言えばユーラシア人、つまりヨーロッパと東洋を繋ぐ架け橋のような存在だと思います。ロシアを東西に地理的に分けてみたらウラル山脈で分かれている。西のロシア人と東のロシア人の間は微妙な差があります。言葉の柔らかいなまりから考え方の多少の違いまでの差です。それから極東に住んでいるロシア人は西のロシア人より明らかにアジアのこと、日本のことに詳しいです。私自身はモスクワ出身の人なので西のロシア人のほうが分かります。一般の人は日本についてとても浅い知識を持っています。なかなか情報が届かないので偏見がたくさんあります。皆に知られていることのなかはまずソニー、パナソニック、三菱、東芝のような日本の電気製品会社です。それからロシア人は格闘技がすきなので日本の独特のスポーツである柔道、空手道、合気道などが流行っています。それらのスポーツのたくさんファンがいます。そのほか、日本人はいまだに刀を持って町を歩いていることを考える人が少なくはありません。それは情報不足の結果です。ロシアで明黒澤監督の七人侍のようなもちろん面白いけれども少し古くなってきた映画しか見られません。日本の文化を体験できるところが殆どありません。日本人も色んなところでロシア人の普段生活の癖、習慣、考え方を間違って考えています。たとえば、日本でロシア料理として知られているロシアティーのイメージは少し可笑しいです。日本人はロシア人が紅茶にジャムを入れて飲むと思っていますがロシア人はそんなことをしません。しかしジャムを食べながら紅茶を飲むことがあります。それからピロシキも日本と違って揚げるのではなくかまでやきます。

残念ながらにほんの新聞の中でロシアの実況が正確に伝わりません。批判されるところばかりながれているのでロシアを判断するときは間違いやすきなります。確かに経済状況はソ連のときと比べて悪化しました。ソ連が解体した後、一般の人の生活は苦しくなってきました。特に公務員の給料が安くなったので社会的な意味で一番大事な仕事をする学校と大学の先生、医者、外交官の生活はいっそう厳しくなってきました。厳しい条件に負けて家族を支えるためにそれらの多くのひとは外国で仕事を探すことか、職業を変えて一番利益がある商業にすることしか残りませんでした。しかし悪いところばかりではなく、明らかに良いところが現れてきました。ソ連の鉄のカーテンがなくなってからイデオロギーの重いプレッシャーから隠れたロシア人の自由好きな意志が解放されました。その結果の一つとしてロシア教会の復活です。旧ソ連のとき、共産党の無神論のイデオロギーが強くて公式的に宗教の自由が許されませんでした。特にスターリン時代のはじめに多くの教会が崩壊され、牧師達が裏切り者という捏造証拠で迫害されていました。ソ連の明るい未来に信じることしか許されませんでした。コムソモールという共産青年同盟をはじめとす

る共産党に加わることは無理だったので信者たちにはキャリア、昇格をすることが不可能でした。そういう条件で信じる人が少なくて聖書、牧師、公開教会の不足で信者は宗教に詳しくはありませんでした。子どものときに洗礼を受けた人はだいたい田舎の人でした。十字架をつけて町を歩く人は軽蔑されていました。ソ連の解体とともに宗教の自由になったので信仰を求めるロシア人はロシア聖教に再び向かいました。教会は再建されなじめました。共産主義のイデオロギーが瞬く間に消えてロシア聖教がまだ復活していないという精神的に不安定な条件であらゆる宗派にとって布教を始めるにはいい状態になりました。日本のオウム真理教はその一つでした。しかしロシア聖教の復活とともに宗派の影響は殆どなくなりました。ソ連時代と違って宗教を信じること、十字架を切ることは人気になりました。年輩の人だけでなくたくさん若者も教会に行ったり、宗教の話をしたりすることになりました。

これで終えさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

リレーエッセイpart1

4回生　由布　千恵

左端が由布千恵子さん

今秋　久しぶりに長崎に帰りました。クラス会に出席するためです。昭和４２年３月、南を卒業する時、２０００年にクラス会をしましょうと約束して別れました。その時は２０００年なんてずっとずぅ～と先の事。自分達が５０代になる姿を想像できないほど若かった。本当に！

そして今はもう、孫の話もチラホラ。卒業して３３年。それぞれの人生を改めて思い巡らしました。勿論、恩師広瀬先生も喜んで出席して下さいました。

逢ってすぐにニックネームが出てくる人もいれば、卒業以来の再会の人もいたので、あら～○○さん？と訊いてしまう人もいます。でも、少し話している内にすぐに高校時代の彼女の顔が出てくるのですね。

お互いに変わっているんだけど、変わっていない。解るでしょう？

会場は、紅灯記という中華料理店。

ここは私達の同期、鄭さん（旧姓）のお父さんのお店で、彼女も手伝っています。家族的な温かい雰囲気で美味しかった。

横浜、神戸の中華もそれぞれに美味しいけど、やっぱり長崎が一番うまか～ってか・ん・じ・（これは全然関係ない話だけど、旨か～と出したくて変換したら馬か～となり、笑ってしまいました。やっぱり長崎弁は無理かな。メジャーでなくてゴメン。）

それにしても長崎は変わりましたね。駅舎というのか駅ビルというのか、龍の頭がドーンと壁から出ているのを見てビックリ。若者が喜びそうな店がいろいろと入っています。一階に紅茶専門店が入っていたのは GOOD です。大波止にも同じ様なビルが出来ていてこちらは夢彩都。

どちらもデパートと言った方が早いかな。長崎のデパートはすごく狭いから、これらの新しいお店はゆったりと買い物が楽しめる感じです。

夢彩都の横の海岸通りにはレシトランなどが並んでいて、東京で言えばお台場、神戸で言えばハーバーランドを目指しているとのこと。なるほど。

夕方になると、カップルが徐々に集まります。邪魔しないようにそろそろ帰りましょう。駅ビルの中には食事する店しかないので、ゆっくりお茶したい時はちょっとね・・・
その点大波止の方が海も見えるし、一歩リードしてるかな？

人の流れが変わったので、浜の町のアーケード街のお店や、浜屋と大丸が（岡政が大丸に変わったのもまだピンときません。これって私だけ・・・？）手を組んで企画する事になったとニュースでやっていました。どこも大変。暫くは新しいお店に行くかもしれないけど工夫しだいでやっぱり浜の町に戻ってくるのではないかと外野席で無責任に思ったことでした。

でも築町の市場の変わり方はビックリと同時にガッカリしてしまいました。以前のあの活気が消えてしまいました。市場の持つ熱気独特の雰囲気、見て廻るだけでも楽しかったのに、観光客にとっても面白い場所ではなかったかと思います。なんでも新しく立派なビルにすれば良いってもんじゃないような気がするけど。

伊王島に面白い物が出来たのを知っていますか？スペイン風のホテルやレストラン等があり、リゾートアイランドに生まれ変わってました。なんといっても海。夏は賑わいそうです。すてきな生演奏付きのランチを食べてきました。大波止から高速艇で２０分ぐらいです。

その他にも、阿蘭陀年のキャンペーン、映画「長崎ぶらぶら節」の話題で、そして何よりも“おくんち”ということもあって、街中盛り上がってました。
長崎の人って遊ぶことには命賭けてますよね。これはちょっと大袈裟だけど・・・
今回私は本当によく喋り、よく食べ、よく歩き楽しい１０日何間の旅？でした。
（すっかり一観光客になってしまいました。）
沢山の笑顔、海の幸、お菓子などのお土産そして自分の体にもいっぱい身に付けて帰ってきました。

さあ、明日からダイエット！ダイエット！

リレーエッセイpart2

１４回生　本田　佳明

１１月８日、ＡＭ６：４５　会社のデスクに座り自分のパソコンを立上げ、Ｅ－ mail を開くと久しぶりの、金尾君からのメールであった。内容を読んでいくとナ・ナ・ナント“エッセイ寄稿”の依頼である。

学生時代から文章を書く事が非常に苦手であり、社内での進級論文も上司に手を加えられながら、何とか提出できるものに仕上げられる状態であった、私に“エッセイ”を書けとは、何と無謀な事を依頼するものだと思いつつ引き受てしまいました。

昭和５２年に南高を卒業後（卒業式には受験を理由に出席せず、これが悪かったのかことごとく不合格）、何とか駅前予備校（本蓮寺前）に入学でき受験勉強とパチンコ、二十六聖人前公園でのゴムマリボール野球にいそしみつつ、翌年の昭和５３年に東京の私立大学一校に何とか引っかかり（二年間で８校受験）晴れて大学生になれました（追い込まれた最後には何とかなる状態は現在も変わりませんが…）。

東京での４年間（２年生までは八王子校舎、３年生からは新宿校舎）は、八王子校舎の時は講義終了後奥多摩方面経由で帰宅したり、新宿校舎の時は講義が休講となると新宿東口（“笑っていいとも”が公開放送しているビルがある所）方面や渋谷方面によく出かけていました（今思えば、よく出かけていたものだと自分乍ら感心しているしだいです）。

４年生になり就職活動を始めようとした時、知人の紹介で今の会社を訪問した際、人事部長が以前長崎に勤務されていて、大学名より高校名の方が通りがよく、やはり“長崎南高等学校”はスゴイと思ったのがつい先日のような気がします。（もう２０年もたってしまっていますが…）

昭和５７年、何とか入社できましたが、数

ある勤務地の中で最も北にある福島県の郡山市にある支所に配属されることになりました。ここでは、ＤＩＡＴＯＮＥスピーカーの設計に従事していました。

（この年、東北新幹線が開通し、１番列車の通過するのを事務所の窓越しに見ることができました。）

しかしこの年は、オーディオ不況に見舞われ人員削減が必要となり、たった３ヶ月半の勤務の後に多くの転任者の一人として関西方面に来ました。

現在は、三菱電機エンジニアリング（株）伊丹事業所　機電技術部ＧＩＳ設計課に席をおき、ＧＩＳの生産設計に従事しています。

ＧＩＳとは、Ｇａｓ　ｉｎｓｕｌａｔｅｄ　ｓｗｉｔｃｈｇｅａｒ（ガス絶縁開閉装置）の頭文字をとって呼ばれています。

ＧＩＳ（ジ　アイ　エス　と呼びます）と言うアルファベットを知っている方は少ないと思います。家電製品の様に、一般の家庭に直接関係するものではない為、当然のことと思います。

使用される場所が、電力会社や大きな工場等の受変電に使用されている為、一般の方が目にする事もまれですし、目にしてもそれが何であるか分からないと思います。（一般家庭に有るものに例えれば、電気製品を一度に使い過ぎて〝ブレーカーが落ちた〟と言う、そのスイッチが大きくなった物と思って頂ければ良いと思います。）

今、私が担当設計しているものは、７２，０００Ｖ～１６８０，０００Ｖクラスのものです。一般家庭では１００Ｖあるいは２００Ｖですから、大きさの違いが分かると思います。

また、近年電気の使用量が飛躍的に伸びている事から（最近では、何にでも電気が必要になってきていますから…）

ですから、たくさんの受変電設備が必要になってくるのですが、普通の状態でこのスイッチを作ると非常に巨大なものとなる為、狭い日本の土地に合うように小さくする必要が有りました。

その為、ＳＦ６ガス（六弗化イオウガス）を円筒形の筒に絶縁媒体として高い圧力で封入し、縮小化したものがＧＩＳと呼ばれるものです。

私がこれまで設計し、収めたもので特に皆さんも聞いた事があるものでは、東京の「サンリオ・ピューロランド」・「長崎ハウステンボス」・「テレビ朝日が入っている、赤坂アーク森ビル」・「フジテレビが入っている、東京テレコムセンタービル」等が有ります。

あまり皆様となじみのある仕事では有りませんが、見えないところで皆様と直接関わりのある仕事です。

今回この様な文章を書く機会をいただきまして、同窓会事務局の皆々様にお礼申し上げて、私のエッセイを終わりと致します。

右側が本田さん

リレーエッセイpart3

31回生　楠本　祐子

左側が祐子さん

祐子さんは、京都第一赤十字病院の内科病棟勤務の看護婦さんである。勤務が忙しいということで、今回は変則的ではあるが、電話でのインタビューをまとめさせてもらった。

親子ほど年の離れた彼女を相手にまごまごしつつ、とりあえず「仕事」の話題を振ったら、「最後は家族なのですよね」との言葉が返ってきた。その話をしてほしいと頼むと一つの逸話をしてくれた。
３６才の男性、同い年の奥さんと中学生の息子がいる。血液関係の癌が再発して入院してこられた。彼の場合、現在の医学では半年ほどの余命とわかっていたが、本人の強い希望で、最後まで抗ガン剤治療をおこなった。楠本さんは彼女の医学的知識からすると、無理だと思っていたので、疑問を抱えながらの治療であったし、「死」を受け入れられない彼にしてみれば、どんどん悪くなっていく病状にいらだち、攻撃的になっていく場面もあった。
結局、半年後に彼は亡くなったのだが、最後まで病気と闘いながらの死であった。その彼を支えていたのは「家族」であったと、楠本さんは言う。患者が家族の存在で救われていたことは、死という治療の結末を受け止めねばならない彼女をも癒してくれたのだと思う。この例のように血液関係の癌はとても進行が早く、苦しみながら亡くなる場合が多いので、本人が、死と向かい合い、受け入れるための手助けをする期間がなく、ターミナル的な関わりができないジレンマが治療者の側にもあるようだ。
自分自身のストレスはどうしているのと聞くと、やはり他の友達ではわかってもらうのに時間がかかるので、同じ職場のスタッフと話し合ったりするとのことだった。
どんなに医学が進歩しても、私たちはいつかは必ず死ぬ運命の存在である。そのことをあまりにも無視し続けてきたのが現代ではないかという気がする。
それが患者と治療者を追いつめているのではないかと、彼女との会話でそう思った。

さて、その彼女が来年、退職するんですと言い出すのでびっくりしてしまったが、もう一度大学で勉強したいとのこと。
患者さんを家に帰してあげるため、訪問看護婦を目指しているそうだ。

ニコラスケイジの映画が好きで、ジムにも時々通っているという祐子さん、前を見ているあなたを、おばさんも応援してますよ。
がんばってね。

（聞き書き　　池谷 秀子）

インフォメーション
★平成13年年間行事予定

◎１月１３日（土）
「いしだたみ」第１７号発刊
松本会長の事務所に集まります
時間のある人はお手伝いお願い
します

◎２月２日（金）新年会　P.M.６：３０
「あらかしこ」大阪市中央区道頓堀
２－１－３
リバーサイドオオニシ７F
℡０６－６２１１－１９４７
１１回生の渡辺俊樹さん経営
和洋創作料理のオシャレなお店です

◎４月
春期ゴルフコンペ
細かいことは未定ですので、参加希望
の方はご連絡ください

◎７月６日（金）P.M.6:30
納涼ビアパーティ「アサヒビアハウス梅新」
大阪市北区西天満４－１５－１０
同和火災フェニックスタワーB1F
℡０６－６３１１－２８２９

◎７月１４日（土）
「いしだたみ」１８号発刊予定
発送のお手伝いしていただける方
池谷まで連絡ください

◎９月１５日（土）第１１回総会
まだ予定の段階ですので、「いしだたみ」
１８号で、お知らせします

◎１１月
秋期ゴルフコンペ

◎１１月３０日（金）P.M.6:30　忘年会
「中央軒」大阪市中央区難波
４－２－１１
℡０６－６６４３－００２０
本物のちゃんぽん、皿うどんが楽しめます

◎探鳥句会
リーダー　　３回生松永文子
月１回（原則第４土曜日）
コミュニティプラザ大阪（福島）
℡０６－６４５４－１１５３
興味のある方は、池谷まで連絡ください

発行人　長崎南高関西同窓会
会長　松本　藤一
編集人　池谷　秀子
〒５４１－００４１
大阪市中央区北浜２－３－６
北浜山本ビル３F
松本法律事務所
Tel　06-4707-8518
Fax　06-4707-0038

編集後記

生まれついての「お節介焼き」らしく、同窓会の集まりに出ても、元気のない人のことが気になります。私もそうだけど、不況に巻き込まれて、もみくちゃにされてる人多いよね。それでなくても、４０才過ぎると、老人介護、子供のこと、自分の体のこと等々、頭痛の種は数え上げればきりがありません。
ピンチは最良のチャンスである。この言葉を噛みしめています。
負けないで、まっさらの**新世紀**を迎えてください。

（５回生 池谷 秀子）